

●シマアジは91年夏季（8月）に音響給餌ブイ表層で15cmサイズが30尾ほど確認され、9月には潜水調査で20cmサイズものを中層域（水深10m）で約30尾確認した。10月になると水中監視カメラで撮影されるようになり水中監視カメラの故障した2月下旬までは滞留していた。なお、翌92年にも8月以降水中監視カメラで数尾が確認されている。

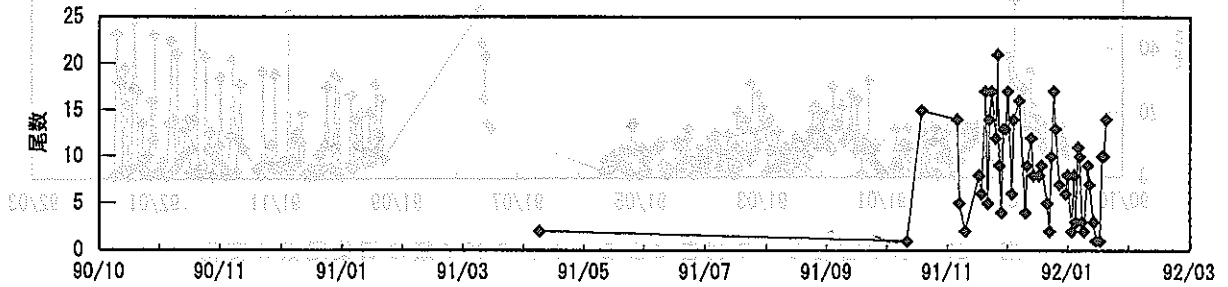


図-24 水中監視カメラ調査によるシマアジの蛸集尾数の変化

●標識放流調査からみた滞留状況について

標識放流は一本釣り及び延縄により釣獲したものについてディスク型タグを装着し、音響給餌ブイで放流した。標識放流の実施状況及び再捕状況については表-16に示し、魚種別再捕結果については表-17に示した。この結果放流魚はすべて放流場所で再捕され再捕までの期間は2カ月から5カ月後であった。この標識放流及び潜水観察の結果によると再捕された魚種のうちシロブチハタ、ツチホゼリ、ヨスジフエダイはほとんど移動せず、音響給餌ブイの下で滞留しているものと考えられた。

表-16 標識放流及び再捕状況

NO	魚類	放流	体長(㎖)	再捕	再捕位置	体長(㎖)	備考
1	メイチダイ	90/07/17	289				90.9.21の潜水調査で確認
2	メイチダイ	90/07/17	257				
3	ハナアイゴ	90/07/17	243				
4	モンツキアカヒメジ	90/07/17	274				
5	メイチダイ	90/07/18	263				
6	ハナアイゴ	90/07/18	270				
7	モンツキアカヒメジ	90/07/18	267				傷多し
8	シロブチハタ	90/09/25	274	90/11/27	ブイ直下		63日間後
9	ツチホゼリ	90/09/25	115				
10	ハマフエフキ	91/01/16	463				
11	ハマフエフキ	91/03/28	505				
12	ハマフエフキ	91/03/28	505				
13	ハマフエフキ	91/08/13	480				
14	ハマフエフキ	91/08/13	595	91/12/17	ブイ直下	595	126日後、再放流
15	ヨスジフエダイ	91/08/13	153				
16	ハマフエフキ	91/08/14	390				
17	ハマフエフキ	91/08/14	462				
18	ヨスジフエダイ	91/08/14	210				
19	ヨスジフエダイ	91/08/14	160	91/12/17	ブイ直下	179	125日後、再放流
20	ヨスジフエダイ	91/08/14	188	92/01/23	ブイ直下	191	162日後
21	ヨスジフエダイ	91/08/14	190				
22	ヨスジフエダイ	91/08/14	180				
23	ヨスジフエダイ	91/08/14	175				
24	ヨスジフエダイ	91/08/14	185				
25	メイチダイ	91/08/14	215				
26	ヨスジフエダイ	91/09/04	200				
27	ヨスジフエダイ	91/09/04	197				
28	ヨスジフエダイ	91/09/04	191	91/12/16	ブイ直下	208	103日後
29	ヨスジフエダイ	91/09/04	206				

表-16 標識放流及び再捕状況(つづき)

NO	魚類	放流	体長(㎜)	再捕	再捕位置	体長(㎜)	備 考
30	ヨスジフエダイ	91/09/04	180				
31	ヨスジフエダイ	91/09/04	170				
32	ヨスジフエダイ	91/09/04	175				
33	ヨスジフエダイ	91/09/04	200				
34	ヨスジフエダイ	91/09/04	200				
35	ヨスジフエダイ	91/09/04	180				
36	ハマフエフキ	91/10/28	295				
37	ハマフエフキ	91/10/24	460				
38	ヨスジフエダイ	91/10/28	122				
39	ツチホゼリ	91/10/28	168				
40	ヨスジフエダイ	91/10/28	206				
41	ヨスジフエダイ	91/10/28	185	92/03/24	ブイ直下	182	153日後
42	ヨスジフエダイ	91/10/28	125				
43	ヨスジフエダイ	91/10/28	132				
44	ハマフエフキ	91/12/16	293				
45	ハマフエフキ	91/12/17	350				
46	ハマフエフキ	91/12/17	496				
47	ハマフエフキ	91/12/17	349				
48	ハマフエフキ	91/12/17	341				
49	ツチホゼリ	91/12/17	278	92/02/27	ブイ直下	310	72日後
50	ツチホゼリ	92/01/23	199				
51	ツチホゼリ	92/02/27	210				標識痕跡あり
52	メイチガイ	92/05/13	158				
53	メイチガイ	92/05/13	173				
54	ロクセンフエダイ	93/01/14	183				
55	ヨスジフエダイ	93/01/14	209				
56	ヨスジフエダイ	93/04/01	187				
57	ヨスジフエダイ	93/04/01	146				
58	ロクセンフエダイ	93/04/01	178				
59	ヨスジフエダイ	93/04/01	157				
60	ヨスジフエダイ	93/04/01	153				
61	ヨスジフエダイ	93/04/01	192				

表-17 標識放流及び再捕状況(魚種別)

魚種	放流尾数	再捕尾数	備 考
シロブチハタ	1	1	
ツチホゼリ	5	0	再捕された以外に潜水観察で滞留が確認されている
ハナアイゴ	2	1	
ハマフエフキ	13	1	
メイチガイ	6	0	
モンツキアカヒメジ	2	0	
ヨスジフエダイ	29	4	再捕された以外に潜水観察で多数確認されている
ロクセンフエダイ	2	0	

●水中監視カメラの映像からみた滞留状況について  
 水中監視カメラでは標識魚種の確認できることと、連続観察ができることにより魚種によっては滞留状況が判断できるものもあった。水中監視カメラの映像により、標識を確認できた魚種はシロブチハタ、ツチホゼリ、ヨスジフエダイ、ハマフエフキで、ハマフエフキ以外は放流した直後から常に水中監視カメラにより確認できた。このことからこれらの魚種は音響給餌ブイの下から全く移動していないことが考えられた。ハマフエフキについては、水中監視カメラの映像ではほとんど毎日出現し、同一の群れが滞留しているように見えるが、標識魚の確認例が少なく(1回)、日により出現するサイズが若干異なることもあり、その滞留状況については明らかにできなかった。連続観察により滞留が確認できたものは、常に撮影されるか一定の期間連続して撮影され、そのサイズの急変もみられないものであった。常時撮影された魚種にはヨスジフエダイ、ハタタテダイ類、スズメダイ類、ハナダイ類、モンツキアカヒメジで、一定の期間だけ観察されたものではシマアジ、メアジ、タカサゴ類、ソコギリダイ、ヒブダイ、テングハギモドキ、ハナアイゴ